

《肥料の施肥例》

じゃがいもはナス科なので、トマトやピーマンとの連作を避けよう！植える時期は遅霜の心配がなくなっているから鉄則。早植えしないように♪

◎元肥 (1㎡当たり)

おいしい菜園 → 80g
他に…トヨクween(石灰) → 100g
吟遊詩人(バーク堆肥) → 2kg
PKマグ32 → 50g …など

◎追肥 (1㎡当たりの1回の量)

おいしい菜園 → 30g
※芽かき2週間後に畝間(または株間)に施肥し、土寄せする。その後は状況を見て、しっかり土寄せしないと、芋が緑色になって品質が下がるので要注意！



この肥料の特徴

栗のような形状で水に溶いて液肥にもでき、土を荒らさない安心して安全な中性化成肥料。速効性だが元肥・追肥両方に使用できる。

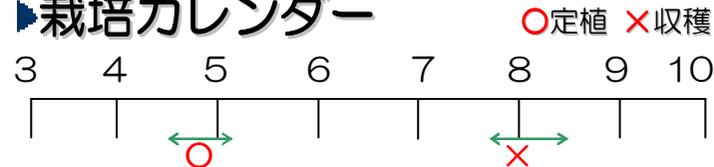
じゃがいも

▶特徴と栽培のポイント

種類が豊富でビタミンCに富み、どんな料理にも相性抜群！生育適温が15~20℃で昼夜の温度差があるほど良く育つため、北海道が主な生産地となっています。

植え付けから3ヶ月後には種芋の約1.5倍もの量が収穫可能で、初心者やお子様も楽しく栽培できるお野菜です♪。

▶栽培カレンダー



小さい種芋はそのまま植えるが、大きいものは1片が40g位で芽が3、4個残るようにカットし、切り口を乾燥させてから植える(種芋は100㎡あたり約2kg使用)。酸性・アルカリ性、どちらでも病気が出やすいので、土壌pHは6.2を目安に…。芽が15cm程度に伸びたら1~2本残して余分な芽は取り除くこと。また芽かきや追肥の際は土寄せを忘れずに。

収穫は茎葉が黄化してきた頃が目安♪降雨後は避け、晴天時に行うこと(皮むけ防止のため)。

♪じゃがいも・ア・ラカルト♪

●男爵

コロケやポテトサラダに最適で、もっともなじみのある品種。粉質で適度な甘みがある。収穫適期を過ぎると黒あざ菌が付きやすいので早めの収穫を…。

●メークイン

煮崩れが少ないので煮込み料理に向く。栽培中は表面が緑化しやすいので注意。収穫後は低温貯蔵すると甘みとホクホク感が増して美味しくなる。

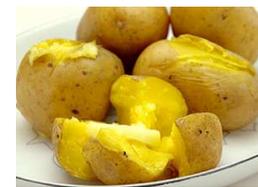


●キタアカリ

やや小ぶりの丸型。ビタミンCが豊富で中が黄色く、ホクホクした栗のような甘みが特徴。収穫期は男爵よりやや遅めで、ジャガイモ線虫に比較的強い。火の通りが早いため、煮崩れに注意。

●とうや(洞爺)

見た目は大きいですがキタアカリと良く似た風味で煮崩れないのが特徴。



●インカのめざめ

どちらかというと粘質で、しっとりとした食感だが、甘みが非常に強く、お菓子やコロケなどお子様のおやつにもぴったり♪煮すぎると水っぽくなる場合がある。